



▲白川原池

## 背景

香川県さぬき市志度町に白川原池というため池があります。300年以上も前に、庄屋が村人のためを思い、腹切り問答の末、藩から築堤の許可を得て完成させた池です。そして、この庄屋に感謝して、干ばつ時にも庄屋家の田だけは水を絶えさせまいと、村人たちが築いた小さなため池があります。能徳池と言います。二つのため池は今も立派に機能し、ため池をめぐる人々の思いやりの心を伝えています。

## アクセス 能徳池

- 津田寒川ICより北へ直線距離約3km
- さぬき市志度町鴨部
- 緯度経度 北緯34度19分15秒, 東経134度13分55秒



村の庄屋矢田助右衛門は、深谷川という谷に土手を築いて水を溜め、下流の未開拓地に五〇町歩の水田をつくる計画を立てました。これを時の高松藩主に許可を歎願したところ、普請奉行が下検分の結果、築堤付近の岩盤はその肌が傾斜しているから貯水が無理であるという理由で許可になりませんでした。

検分使が帰った後で、諦めかねて助右衛門は、意を決して裸馬に跨り役人の後を追いました。やっと屋島付近で追いついて重ねて心情を訴え許可を歎願しました。その時いわゆる腹切り問答がなされました。それは、「もし水を溜めることができなければ、腹かき切つて詫びる」というものでした。この自信と決意が通じて工事はついに許可されました。

助右衛門は悲壮な覚悟で工事に着手しました。工事は至難な大工事でしたが、命をかけた助右衛門の至誠が工事に携わる人に通じないはずはなく、監督する者もされる者も、ただ成功の一点を目指して働き抜きました。こうしてついに完成したのが今日の白川原大池です。

助右衛門の死後、この偉大な業績を讃え、末代の受益を感謝して、村人たちは助右衛門の屋敷裏に再び池を築きました。干ばつの年、白川原池が「おはらい」する前にまずこの池に導水して、矢田家所有の田だけは干ばつから守ってあげようというのです。名付けて能徳池と言います。

人々の感謝の気持ちは、地域に伝わる歌に示されています。「白川原大池干潟になると、能徳池には水絶つまいぞ」